

# 市と弘大が医療ビッグデータでWS

## 高校生ら活用法探る

弘前市は9日、弘前大学と共同で、医療ビッグデータの活用などについて市民と一緒に考える「健康未来都市ひろさきワークショップ2022」を弘前れんが倉庫美術館で行った。参加した約80人は8人程度のグループに分かれ、ビッグデータを利活用した健康づくりについて、さまざまな目線で弘前の未来の姿を考えた。

(稲葉智絵)

### 弘前

市は短命県返上を目的

に、弘前大、県総合健診セ

ンターと共同で2005年

度から、岩木地区の住民を

対象に大規模な健康追跡調

査「岩木健康増進プロジェクト」を実施。21年5月か

らは市民の健康寿命延伸を

目指し、健診で得たビッグ

データを基にした市民の医

療情報を匿名化し、研究機

関に提供する「次世代医療  
基盤法」の取り組みにも乗  
り出している。

ワークショップ(WS)

は弘前大と日本医師会医療

情報管理機構の共催で、市

が掲げる「健康都市弘前」

の表現に向けて、健康につ

いて意見交換しようという

もので、今年度スタート。

これまで子育て世代、働

き盛り世代を対象に行っ

ており、3回目の今回は高校

生、大学生のほか、医療・  
福祉関係者、一般市民らを  
対象とした。

弘前大大学院医学研究科

の中路重之特任教授らによ  
るミニ講座の後、グループ  
ごとに「健康・医療ビッグ  
データ」の活用方法や還元  
方法など、三つのテーマで  
意見を出し合った。

「健康・医療ビッグデ

ータ」をどのように活用す

れば、私たちの健康長寿や

「健康都市弘前」の実現に

つながるの？」では、「そ

もそもビッグデ

ータが認知され

ていない」「活

用する以前の間

題」と意見が出

され、「ビッグ

データを学ぶイ

ベントの開催」

「QOL(生活

の質)健診を市

内の各町内に導

医療ビッグデ

ータを利活用した

健康づくりにつ

いて意見を出し

合う参加者



入する」など、健康意識を  
高める取り組みが提案され  
た。

保健学の道を目指し、参

加したという弘前中央高校

1年の須藤安美さん(15)は

「ビッグデータなど健康づ

くりへの理解をさらに深

め、クラスメートに発信し  
ていきたい」、弘前南高2年  
の岩崎瑠依さん(16)は「ビ  
ッグデータの活用方法を  
今後も考えていきたい」と  
それぞれ感想を述べた。